

はじめに

西淀川区では、平成 26 年 10 月に大阪市地域防災計画が修正されたことに伴い、地域ごとに津波避難計画を中心とした地域防災計画を盛り込んだ西淀川区地域防災計画を策定しました。今回、令和 2 年 4 月に大阪市地域防災計画が改訂されたことにより、これに併せ、西淀川区地域防災計画についても修正を行いました。

《震災対策編》

1 計画の方針

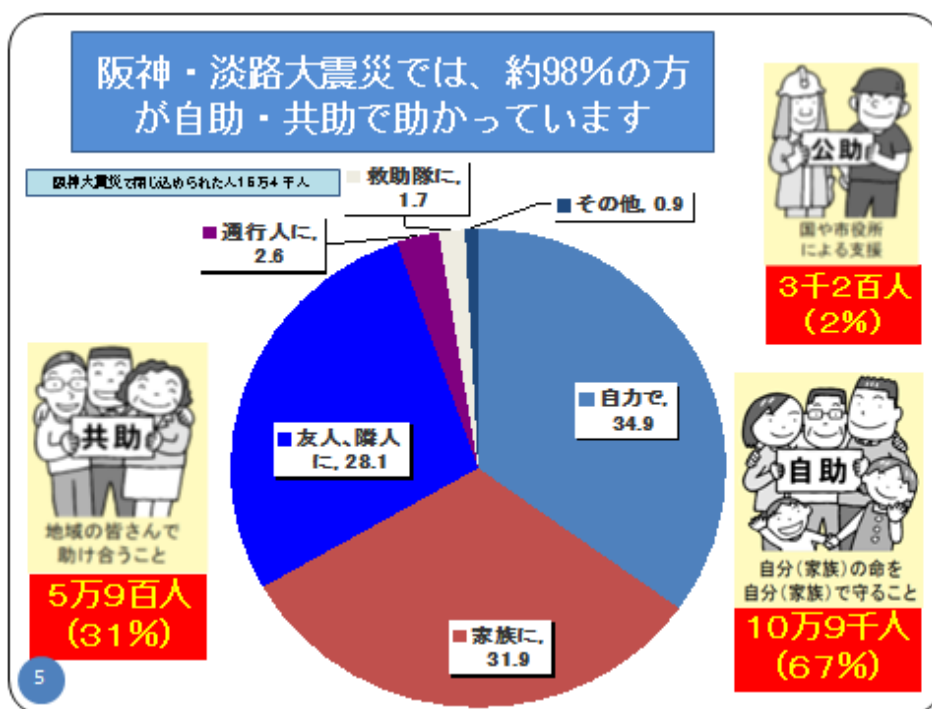
西淀川区は、区域の西側を大阪湾に面し、北側を神崎川・左門殿川・中島川、南側を淀川に接する、三方を海と川に囲まれた地形となっています。また、土地の成り立ちとして、淀川、神崎川などによって運ばれてきた土砂により形成されているため地盤が概ね軟弱であり、地盤高も朔望平均満潮位（O.P.* +2.1m）より低いところが多いことより、地震・水害の被害を受けやすい地域といえます。これら地域特性の十分な認識のもと、災害時の被害を最小限に留めるため、区民と行政関係者等とが一体となり防災活動に取り組んでいく必要があります。

とくに、近い将来の発生が想定される南海トラフ巨大地震等が発生し津波が襲来した場合、前回の計画以降さまざまな対策が進められ安全性は高まってきているものの、最悪のケースを想定し、津波対策を中心とした「震災対策」に引き続き取り組んでいきます。

平成 25 年 6 月に改正された「災害対策基本法」、平成 26 年 10 月に修正された「大阪市地域防災計画」に続き、平成 27 年 2 月制定の「大阪市防災・減災条例」において、市民、事業者の「自助」「共助」による取り組み促進が基本理念として明確化され、それぞれが責務と役割を果たしながら、防災・減災対策の推進を図り、「災害に強いまち」の実現を図っていくとされています。

西淀川区においても、「自助・共助・公助」による防災対策を基本にしなが、各地域活動協議会（防災部会）を中心とした「区民が主体」となって、自主的に避難訓練等を繰り返し行うことにより、「災害死傷者 0」のまちづくりをめざします。

※O.P.=Osaka point（大阪湾最低潮位）



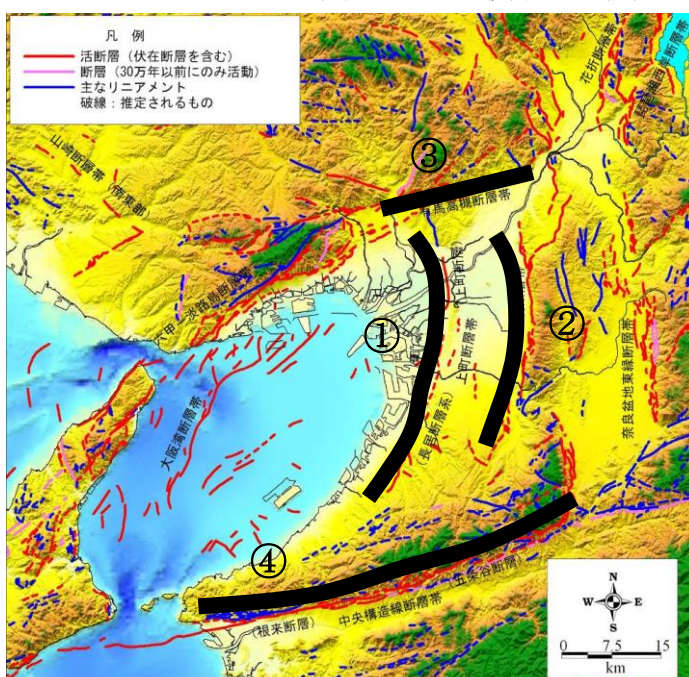
2 災害想定と被害想定

計画では、直下型地震と海溝型地震による西淀川区の災害及び被害を想定しています。

(1) 直下型地震（内陸活断層による地震）

特 徴	<ul style="list-style-type: none"> ・揺れている時間が少ない（10 数秒～数十秒） ・震源が浅いため、断層の近くでは揺れが激しい ・千年から 1 万年程度の間隔で発生する 			
活断層	①上町断層帯	②生駒断層帯	③有馬高槻断層帯	④中央構造線断層帯
地震規模	7.5～7.8	7.3～7.7	7.3～7.7	7.7～8.1
震 度	5 強～7	5 弱～6 弱	5 弱～5 強	5 弱
全半壊	6,890 棟	479 棟	523 棟	6 棟
避難者数	8,628 人	593 人	641 人	11 人

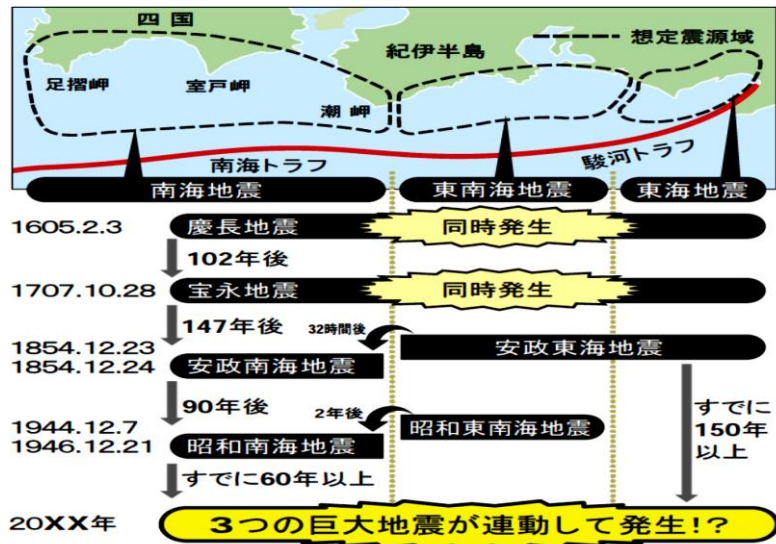
出典：大阪府（2007）大阪府自然災害総合防災対策検討（地震被害想定） 報告書，平成 19 年 3 月



(2) 海溝型地震（西淀川区の被害想定は、(3) III に掲載）

種類	発生場所	津波	揺れ	周期
⑤-1 海溝型 東南海・南海地震	海	有	2～3 分間 大きく長い	90～150 年
⑤-2 南海トラフ 巨大地震 平成 25 年 8 月 8 日 大阪府公表	海	有	2～3 分間 大きく長い	1000 年～

南海トラフとは、四国の南の海底にあり、東海地方から九州付近にわたる水深 4000m 級の深い溝のことで、先の政府の地震調査委員会で、今後 30 年以内にマグニチュード 8～9 クラスの巨大地震が発生する確率について、「70%～80%」に引き上げられました。



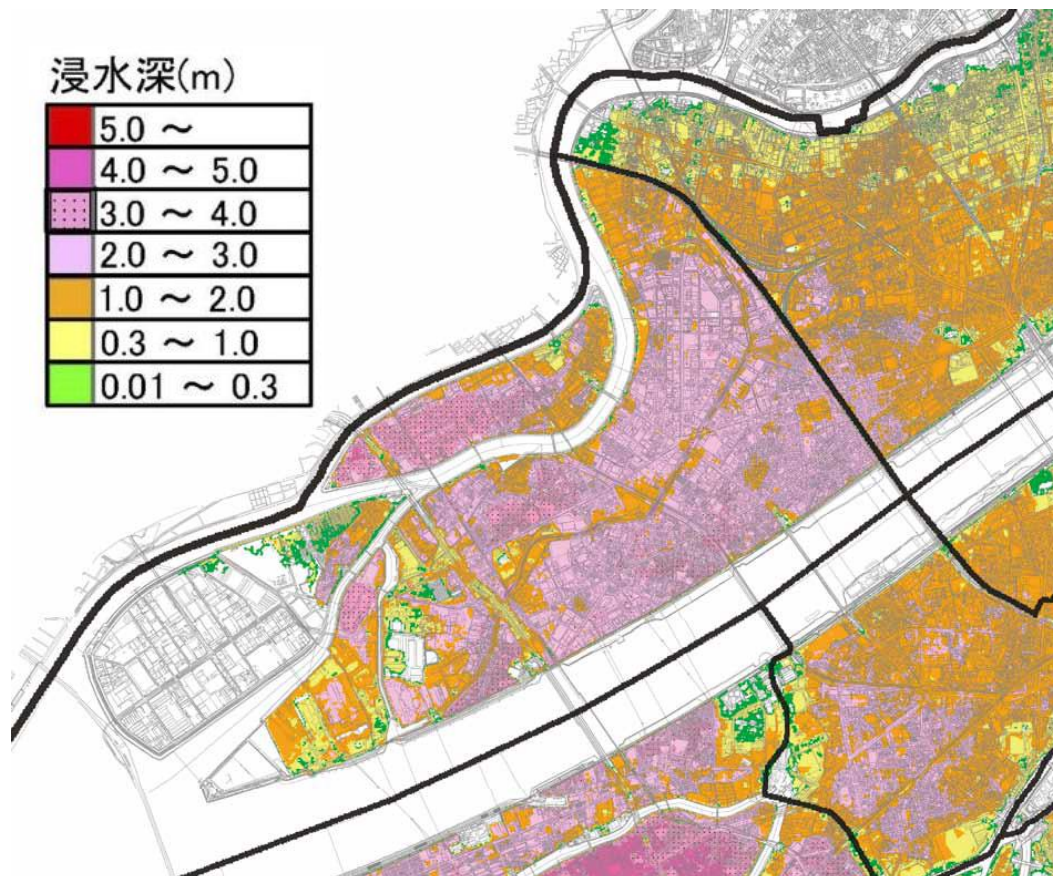
(3) 津波被害想定

平成25年8月および10月に行われた「大阪府防災会議 南海トラフ巨大地震災害対策等検討部会」において公表された南海トラフ巨大地震が発生した場合の被害想定では、大阪市24区全てで最大震度6弱、17区で津波浸水し、市域の広範囲で液状化の可能性があるなど、甚大な被害をもたらすとされています。

西淀川区における地震規模及び津波の想定は次のとおりです。

I：南海トラフ巨大地震の西淀川区の津波浸水想定図 [平成25年8月8日大阪府公表]

※南海トラフ対策実施前で、液状化により防潮堤が沈下し、各水門も閉鎖されない状況での最大津波高による浸水深を繋いだ図。



II：西淀川区における地震規模及び被害想定（平成 25 年 8 月 8 日 大阪府発表）

地震の名称	地震規模 (マグニチュード)	津波			
		震度	西淀川区への最短到達時間	波の高さ	海岸付近の堤防高さ
南海トラフ	9.0～9.1	6弱	116分	O.P.+5.6m	O.P.+7.6～8.1m
	西淀川区の避難者予想数（発生から1日後）				96,477人
	津波被害による要救助者（夏：12時）				60,799人
	避難が遅い場合	堤防沈下等による死者数（冬：18時）			12,978人
		津波による死者数（冬：18時）			6,746人
		計			19,724人
	避難が早い場合	堤防沈下等による死者数（冬：18時）			5,665人
		津波による死者数（冬：18時）			0人
		計			5,665人

※南海トラフ巨大地震の発生により沈下等の恐れのある神崎川等の堤防について、河川管理者により平成 30 年末に防潮堤の耐震補強工事が終わり、また阪神なんば線高架上げ工事に伴う堤防補強により津波による死者数について計画は、ほぼ 0 人となるが、計画以上の津波や鉄扉が封鎖できない場合などの想定外が起こることを考え、高いところへの避難は必要がある。

(4) 堤防耐震化対策

神崎川筋 南海トラフ地震対策事業

対策前
地盤沈下により、防潮堤の止水機能が発揮されず、浸水が発生

対策後
液状化層を地盤改良することにより、防潮堤の沈下やズレを抑止し、浸水を防止

（資料）大阪府 西大阪治水事務所